

---

# 雨と涙

夏目洋介

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雨と涙

### 【Nコード】

N5236E

### 【作者名】

夏目洋介

### 【あらすじ】

雨をテーマに書いてみました。時期はずれもいいところです。

雨と涙

一人、クリスマスの街を歩く

きらびやかな街灯

華やかな衣装に包まれた笑顔の女の人たち

それを優しく見守る笑顔の男の人たち

彼らにはスポットライトのように光が降り注ぐ

私は彼らの影を歩く

一人きりの私には光は決して注がない

くく

「別れよう」

たった5文字の言葉によって私は光に嫌われた

何度も何度も私は彼にお願いをした

「何でもするから」

「悪いところがあるなら治すから」

「お願いだから・・・別れないで」

ありつたけの言葉も彼の心には届かなかった

くく

ふと、店のショーウィンドーを覗き込む

サンタさんが優しい表情で私を見る

ジングルベルが鳴り響く

幸せな街が私をいつそう惨めにする

涙が流れた

とめどなく涙が流れた

冷たい頬に冷たい涙が流れる

体も心もとっても寒くて固まっているのに

涙だけは固まってはくれない

周りの視線が気になり

すそで涙をぬぐって顔を上に向けた

ポツリ

頬に涙とは違う冷たい雫が落ちた

あ、雨だ

ポツリポツリと雨が強くなっていく

少しの間も立たずにどしゃぶりになった

みんな雨から逃れようと街中を駆け回る

私はその中を一人、上を向いて立ちすくむ

「神様も泣いてくれているのかな」

私の涙は雨によって流される

雨の雫が心にも、体にも満たされていく

「雨よ

決してやまないで

私の涙が枯れるまで」

「雨よ

決してやまないで

私の心が満たされるまで」

クリスマスの夜

冷たく、優しい雨は

決してやむことなく私に降り注いだ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5236e/>

---

雨と涙

2010年11月10日02時35分発行